

報告書名：8020 達成者の咬合および顎顔面形態に関する調査 -咬合状態は 8020 達成に関与するか-

研究者名：宮崎晴代¹⁾，茂木悦子¹⁾，原崎守弘¹⁾，谷田部賢一，山口秀晴¹⁾，井上 孝²⁾，眞木吉信³⁾，
関口 基⁴⁾

所 属：東京歯科大学水道橋病院矯正歯科，東京歯科大学歯科矯正学講座¹⁾，東京歯科大学臨床検査部²⁾，
東京歯科大学衛生学講座³⁾，千葉市歯科医師会⁴⁾

【目的】8020 達成のための齲蝕と歯周病の予防には口腔清掃の励行や食生活の改善など生活習慣の管理や定期的な歯科受診による管理が重要であることは言うまでもないが，歯列や咬合状態が口腔の自浄性や清掃器具到達性に関与することも容易に推測できる。本研究の目的は良好な咬合状態が 8020 達成に貢献する 1 因子となると仮説を立て 8020 達成者の咬合状態や顎顔面形態について歯科保健状況と合わせて検討することである。

【対象および方法】千葉市歯科医師会および東京歯科大学歯科矯正学講座は“千葉市 8020 長生き良い歯のコンクール”の予備審査として平成 10 年度より 13 年度までに 8020 達成者の資料採取を実施した。また平成 13 年度は千葉県でも同様の調査を実施し両者を併せて 76 名，男性 44 名，女性 32 名を今回の資料とした。調査内容は 8020 達成者の同意を得て口腔内診査(歯科疾患罹患状況，歯周疾患治療必要度(CPITN)，顎関節症状の有無)，口腔内写真，顔面写真，X 線写真(頭部 X 線規格写真，オルソパントモグラフィー)，歯列模型，咀嚼機能状況のアンケートを行い，8020 達成者の歯科疾患状況と咬合及び顎顔面形態の分析を行った。

【結果】対象者の平均年齢は 82y (80 - 90 歳)，現在歯数は男性 26.2 歯，女性 25.0 歯，平均 25.7 歯で平均年齢と現在歯数に男女差はなかった。現在歯数 25.7 歯の内訳は健全歯が 11.6 歯，処置歯が 12.9 歯，未処置歯が 1.2 歯だった。CPITN では半数が歯周病傾向だったが顎関節症状有症者は少なく全員が良く噛めると回答していた。また 8020 達成者はほとんどが正常咬合に近い比較的良好な咬合を有していた。一般成人対象の疫学調査では不正咬合の発現率が高いため，8020 達成者群が良好な咬合を有することは際立った形態的特徴である。具体的には反対咬合や開咬が極めて少なく，前歯の被蓋が正常でアンテリオールガイダンスが存在するものがほとんどであること，正常咬合の指標であるアングル分類 class の割合が高く咬頭嵌合が確率していること，叢生を有する割合が低いこと，上下顎前歯の正中線はほぼ一致し顔貌は左右対称であることである。また 8020 達成者に施された補綴処置もこうした条件を妨げるものではなかった。

【結論および提言】8020 達成者の咬合及び顎顔面形態が正常に近く咀嚼機能が良好であることから，個々の歯の疾患に囚われることなく咬合状態や口腔機能を含む一口腔単位のオーラルヘルスを考えることが 8020 達成に必要な発想ではないかと考えられた。このことは修復処置において正常形態や機能を付与することの意義や，若年齢者から中高年に至るまで個性正常咬合を育成する歯列矯正の意義につながると考える。